

第 14 回 物性科学領域横断研究会アンケート集計結果 回答数:51 件

1. この会議の開催はどのようにして知りましたか？(複数回答有)

- a. 日本物理学会の WEB や学会誌で 0
- b. 日本物理学会の各領域 ML の案内で..... 3
- c. 新学術領域の WEB やメンバー宛のメールで 35
- d. 知り合いの研究者からの情報で 20
- e. その他 (具体的に) 1 (自分で検索)

2. この会議への参加はご自身にとって有意義でしたか？

- a. 大変有意義だった 27
- b. まずまず有意義だった 22
- c. どちらともいえない 1
- d. あまり意義がなかった 1
- e. 全く意義がなかった 0

3. 講演内容は全体として分かりやすいものでしたか？

- a. 大変分かりやすかった 18
- b. まずまずわかりやすかった 25
- c. どちらともいえない 4
- d. ややわかりにくかった 4
- e. 大変わかりにくかった 0

4. 会議期間 (2 日) は妥当だと思いますか？

- a. 長すぎる 2
- b. ちょうどよい 49
- c. 短すぎる 0

5. プログラム、若手一般講演、Web 開催、その他会議運営全般について、お気づきの点がありましたらご記入ください。

- オンライン開催のほうが出席しやすいと感じました。オンラインの場合、当日の参加登録も可にできないでしょうか。当日の飛び入り参加の場合、音声やチャットで質問できないというのでも良いと思います。
- 審査員は若手一般講演の他のセッションの講演を一切聞けないのが残念ですので、その点改善いただければ幸いです。
- 全く不満はありませんでした。
- 各領域の説明で大まかな概要を知ることができ大変勉強になりました。若手講演のいくつかは、領域の説明の後に聴ければより理解が深まったかもしれないと感じました。参加させて頂き、ありがとうございました。

- 物理学会各種 ML に案内が今年はなかったように思います。領域に属していない人は情報を持ち合わず、私も気づいた時には締め切りを過ぎていました。締め切り後の登録を許していただきありがとうございました。若手の講演があったのは良かったように思います。
- web 開催は今後も続けていただくとよいと思いました。
- 各領域からの講演をもう少し増やしてほしい。代表による領域紹介にプラスして 2 件は講演が欲しい。
- 若手一般講演はレベルが高く、よい発表が多いと感じました。若手一般講演において、発表者や聴衆がミュート解除しにくい設定になっていたことがあったようです。Zoom の設定の問題かと思います。
- 若手一般講演の発表を聴いて、分野間の学術的価値観の違いや文化の違いを強く感じた。異分野の若手研究者の発表から賞を選出することの意義については疑問に思う。凝縮系科学賞についても、現在の領域横断会議に参加する新学術の分野とはマッチしておらず、この研究会で授賞式をすることが適切なのか分からないように思う。
- 幅広い分野の方が集まっていますが、全く違和感なく融合していて素晴らしいと思いました。運営に関われた皆様に敬意を表したく存じます。
- 本年は、領域 8 の ML には研究会の案内が流れていないようでした。同僚（新学術には参画していない）は開催されていることを知らなかったのも、他の ML では周知したようであれば、領域 8 の ML にも周知したほうが良いと思います。
- もう異分野の領域の人がフランクに話せるようなパネルディスカッションのようなものがあったもいいのかもしいかなと思いました。
- 現在進行中の新学術領域の内容に依存するとは思うのだが、非常に実験系に偏っていた気がした。

6. 物性科学領域横断研究会に期待・希望されることは何ですか？

- 世話人の先生方にはご面倒をかけますが、ぜひ継続してください。
- 幅広い話題を聞ける貴重な機会であると思いますので、今後も継続的に開催されることを願っております。
- 分野を横断したディスカッションによる視野の広がり
- 領域代表者による領域の目的と組織、現状に関する紹介は、毎年同じようになってもよいので必ず入れてほしい。次に学術変革領域の予算申請しようとする研究者には参考になる。
- こうしたスタイルの研究会を継続されること
- 世代交代
- 新学術領域の成果と展望を伝えていただきたい。
- 以前の領域横断会議は関連する近い分野での架け橋となっていたので良かったが、現在のものは分野がかけ離れており、研究会の存続に強い意義を見出せない気がする。
- こういった幅広い分野の研究者が集まる機会を、今後もぜひ継続していただければと思います。
- 物性科学の幅広い領域にわたる研究を概観するのに適した規模と内容でした。今後も物性科学コミュニティの発展のために活動していただけることを希望します。
- 若手の活躍（交流）の場として浸透すること